

森鷗外の漢文日記に見られる外国人名の表記についての一考察

— 『隊務日記』を中心に —

何 欣 泰

一 はじめに

『漢字百科大事典』¹によれば、外来語の漢字表記には次の三種類がある。

- (一) 漢字の音や訓を用いて原語音を日本語のなかに写すもの。
- (二) 漢字の音でなく、一字または文字列の意味を用いるもの。
- (三) 上記二者の混合。

本稿では、外国との交流が盛んな明治期において、対象を外国人名の漢字表記に絞り、この期の代表的作家森鷗外が外国人名を漢字で表記するのに、傾向性があるか、またどのような特色があるかを考えてみたい。資料は鷗外の漢文日記の中で、外国人名が一番多く出てくる『隊務日記』を中心にした。これは鷗外の著作の中で外国人名を漢字で一番多く表記しているのである。

二 森鷗外の漢文日記における外国人名の漢字表記について

森鷗外の漢文日記は、初期のものから順に従って、『航西日記』（明治十七年一月二十三日から同年十月十一日）、『隊務日記』（明治二十一年三月十日から同年七月二日まで）、『還東日乗』（明治二十一年七月三日から同年九月八日まで）、『委蛇録』（大正七年一月一日から大正十一年七月五日まで）がある。また、大正六年から日記の文が簡潔になって漢文の所が多い。この『大正六年日記』（大正六年一月一日から大正六年十二月十二日まで）はほとんど純正な漢文で記されている。²

上記の漢文日記の中で、鷗外が外国（漢字文化圏以外の国）人の姓名を表記する方法は、下記のように3種類に分類できる。各2例を挙げる。³

- 1 外国人名を漢字で表記し右に傍線を附す。⁴

¹石綿敏雄氏執筆

²『獨逸日記』（明治十七年十月十二日から明治二十一年五月十四日まで）はもと『在徳記』と題されて漢文体であったが、小倉時代に、現存のごとく雅文体に修訂整理されたものであると言われる。

³以下、引用はすべて第三回の岩波版全集に従う。

⁴原文は縦書きである。本稿では代わりに下に傍線を引く。

初三日早。(略) 偶外科醫長末克耶烏殷氏來接。(略) (『航西日記』より)

十月初一日。(略) 而督工者為佛國學士列色弗氏。(略) (『航西日記』より)

2 漢字で表記し右に傍線を附し、さらに横書きの原語を括弧の中に併記する。

明治二十一年三月十日。(略) 訪軍醫監戈烈兒 (von Coler) 軍醫正穀獵兒 (Köhler)、至府司令衙 (Commandantur)、記名。(『隊務日記』より)

八日。(略) 投宿于刺弗頓 (Laughton) 氏之家。(『還東日乗』より)

3 人名を横書きの洋字だけで示す。

二月一日。金。晴。參館。飯冢啓來見。又引見米人某。費城博物館員也。Warner氏。(『委蛇録』より)

十三日 (水)。陰。與妻歩下谷。長谷川福平來傳富山房議。欲縮刷 Faust 譯本也。(『大正六年日記』より)

漢文日記群がこれらの3種類との関わりを示すと、下記ようになる。(表①)

表 ①

種 類	日 記 名
1	『航西日記』
2	『隊務日記』 ⁵
	『還東日乗』
3	『大正六年日記』 (漢文体の部分)
	『委蛇録』

⁵ これらの漢文日記の中で、外国人名が一番多く出てくるのは『隊務日記』である (計50名・異なり)。『航西日記』と『還東日乗』には各6名だけがある。

三 『隊務日記』に見られる外国人名の漢字表記

『隊務日記』の中の外国人名アルファベット順に示すと下記ようになる。職業種及び階級が分る場合、それを付しておく。なお、「von」・「Baron」・「Graf」など漢字表記に相当しない部分は斜体で示す。(表②)

表②

原 語	漢字表記	職業種及び階級
Amende	亞蘇經	軍醫
Baden	葩田	大公
Bardeleben	電特列辨	軍醫監
<i>Baron von</i> Collas	過瀨士	聯隊長大佐
Bastian	巴斯氏安	大學教授
Becker	槩桀兒	軍醫
Bergmann	珀珥古曼	
<i>Bronsart von Schellendorff</i>	蒲輪颯拖	吏
Curlt	屈爾兌	醫學書の作者
Esmarch	耶司麻朶	醫學書の作者
Eugen Hahn	阿裔再韓	外科醫長
Gossler	餓獅裂餅	大尉
Gossler	我事勒爾	吏
<i>Graf von</i> Fabrice	法勃禮士	大臣
Görzen	鼈耳顛	軍曹
Grawitz	駛駛尾足	副醫官
Hans Buchner	韓士 勃乎藥兒	軍醫
Haydn	海整	作曲家
Jonas	約内士	一等軍醫
Kämrich	潔目李蹊	軍曹
Köhler	穀獵兒	軍醫正
König	履泥黓	醫
Krautwurst	骨老墮伉爾宿脫	醫官
Kreuz	谷洛台族	榴彈卒
Langenbeck	爛劍魄骨	
Locius	露織霧絲	吏
Mendelssohn	蘇植虜孫	作曲家
Müller	繆獵兒	軍醫正
Musehold	謨樊和魯度	軍醫
Petri	百度里	
Remy	勒寐	醫官

Riebel	璃珀兒	一等軍醫
Riedel	蝨腫盧	
Roser	羅查兒	醫學書の作者
Rotter	囉的兒	醫學書の作者
Rudolph Virchow	魯陀盧佛 唯爾和吾	名士（政治人物）
Rusch	魯叔	未亡人
Samuel Guttman	薩母耶盧 屈度曼	週報記者
Scheibe	灑衣帛	軍醫
Schubert	庶別爾多	中將
Stanislaus	司丹尼老章	
Vogl	覆穀兒	軍醫正
von Clausewitz	古老熱未卒	少佐
von Coler	戈烈兒	軍醫監
von Horn	火輪	大尉
von Lotzbeck	蘿礎迫古	醫
von Seckendorff	葉簡多爾輔	大尉
von Petersdorff	彼得斯多爾輔	中佐
Weber	伉野白兒	軍醫
Wilhelm Roth	維廉 蕪朶	軍醫監

『隊務日記』は鷗外がベルリンの近衛歩兵第二聯隊に服役した時の記事である。登場人物は当時、陸軍一等軍医森林太郎の関係で、医者及び軍医のほうが一番多い、計24人がある。その次は軍人で、計10人がある。全体として計50人の名前が見られる。職種により漢字表記に影響を与える証拠は見られない。⁶

ここで、まず、筆者の目を引くのは『隊務日記』の中に、これらの漢字は他の文献に外国人名の漢字表記として用いられることが稀である。

「穀」、「馱」、「馱」、「黠」、「蕪」、「穀」、「藥」、「経」、「熨」、「鼈」、「蝨」、「腫」、「氏」

なお、これらが人名として用いられているかどうかは今後の調査を待つ。ここでは柏書房の『宛字外来語辞典』（人名の見出し語は計1832語である。）を比較資料として観察した。

四 漢字で表記した外国人名の字音について

鷗外がこれらの外国人名をどう読んだかは管見の限り、現在において論じた文章が見られない。し

⁶ 「維廉」（Wilhelm）という表記は『舞姫』にも見られ、ドイツ皇帝（プロイセン王、1797～1888）と同じ名であるため、当時定着した表記と考え、本稿ではこれを考察範囲外とする。

かし、『獨逸日記』には若干の手がかりがある。

この『獨逸日記』は、『航西日記』のあとを受け、『隊務日記』を挿んで『還東日乗』とつながるものだが、他の日記が漢文体であるのに、この日記だけが流暢な雅文体である。ここでは、外国人の姓名を下記のように表記している。

十四日。又橋本氏音信れぬ。衛生学を修むることに就きて、順序をたづねしに、先づライプチヒ Leipzig なるホフマン Franz Hofmann を師とし、次にミュンヘン Muenchen なるベツテンコオフェル Max von Pettenkofer を師とし、最後にここなるコツホ Robert Koch を師とせよと諭されぬ。
(『獨逸日記』より)

つまり、鷗外は「よみ」を先に示し、それに該当する原語を示している。これにより、当時、鷗外がこれらの外国人名をどう発音したかの手がかりになる。ちなみに、『隊務日記』と『獨逸日記』に見られる原語は計九語があるが、アルファベット順で示してみよう。(表③)

表③

原 語	漢 字 表 記	カタカナ (『獨逸日記』による、以下同)
Amende	亞蘇經	アメンデ
Bastian	巴斯氏安	バスチヤン
Becker	槩桀兒	ベツケル
Müller ⁷	繆獵兒	ミュルレル
Roth	蘿朶	ロオト
Scheibe	灑衣帛	シヤイベ
Virchow	唯爾和吾	キルヒヨオ
Coler	戈烈兒	コオレル
Weber	伉野白兒	エエベル

これらの漢字表記は原語の発音により直接に当てられたかどうか漢字一字一字で観察してみたい。
(表④)

日本の漢字音 (以下は「字音」) は漢音・呉音・唐音・慣用音をあげ、片仮名によって表記する。また、漢音・呉音は、両音が異なる場合漢音・呉音の順に表示し、同じ場合に単記した。なお、作品の時期に合わせるために、歴史的仮名遣いを主とし、歴史的仮名遣いと現代仮名遣いとが異なるものに

⁷ 『獨逸日記』には「Mueller」という表記でした。「Müller」は「Mueller」の古い筆記体である。長谷川泉氏が指摘しているように、鷗外は『在徳記』を『獨逸日記』書き直す際に、ドイツ語のウムラウトを別綴に訂正した。(『鷗外論考』P142)

については、現代仮名遣いを（ ）に入れて示す。現代中国語音は、「漢語拼音方案」（1958年）によってローマ字で表記する。

表④

原 語	漢字表記	現代中国語音 (漢語拼音方案)	字 音	カタカナ	
Amende	亞	Yà	ア	ア	
	縣	Mián	メン	メン	
	經	Dié	漢：テツ 呉：デチ	デ	
Bastian	巴	Bā	ハ	バ	
	斯	Sī	シ	ス	
	氏	Dī	漢：テイ 呉：タイ	チ	
	安	Ān	アン	ヤン	
Becker	槃	Bō	漢：ハク 呉：ヒヤク 慣：バク	ベツ	
	桀	Jié	漢：ケツ 呉：ゲツ	ケ	
	兒	Ér	漢：ジ 呉：ニ	ル	
		Ní	ゲイ		
Müller	繆	Móu	漢：ボウ 呉：ム	ミュル	
			漢：ビウ (ビュウ) 呉：メウ (ミョウ)		
		Miù	漢：ビウ (ビュウ) 呉：メウ (ミョウ)		
		Jiū	キウ (キュウ)		
		Jiào	レウ (リョウ)		
		Mù	漢：ボク 呉：モク		
	獵	Liè	レフ (リョウ)		
	兒	Ér	漢：ジ 呉：ニ		ル
		Ní	ゲイ		
Roth	蘿	Lóu	ラ	ロオ	
	朶	Duǒ	タ 慣：ダ	ト	

Scheibe	灑	Sǎ	漢：サイ・サ 呉：シャ	シャ
		Xǐ	シ	
	衣	Yī	漢：イ	イ
		Yì	呉：エ	
帛	Bó	漢：ハク 呉：ビャク	ベ	
Virchow	唯	Wéi	漢：ヰ (イ) 呉：ユイ	ヰ
		Wěi		
	爾	Ēr	漢：ジ 呉：ニ	ル
	和	Hé	漢：クワ (カ) 呉：ワ 唐：ヲ (オ)	ヒヨ
		Huò		
吾	Wú	ゴ	オ	
Coler	戈	Gē	クワ (カ)	コオ
	烈	Liè	漢：レッ 呉：レチ	レ
	兒	Ēr	漢：ジ 呉：ニ	ル
Ní		ゲイ		
Weber	伉	Kàng	カウ (コウ)	エ
		Gāng		
	野	Yě	ヤ	エ
		Shù	漢：ショ 呉：ジョ	
	白	Bái	漢：ハク 呉：ビャク	ベ
		Bó		
兒	Ēr	漢：ジ 呉：ニ	ル	
	Ní	ゲイ		

まずは「Amende」を見よう。鷗外は『獨逸日記』の中にこの語を「アメンデ」と読み、『隊務日記』の中で「亞絲經」と当てた。「亞」・「絲」のほうは問題がないが、「經」という字は漢音「テツ」・呉音「デチ」と片仮名の「デ」とが合っていない。続けて「Scheibe」を見よう。カタカナの「シャ」にあたる漢字「灑」の漢音は「サイ・サ」、呉音は「シャ」である。「イ」にあたる漢字「衣」の漢音は「イ」、呉音は「エ」である。最後の「ベ」にあたる漢字「帛」の漢音は「ハク」で・呉音「ビャク」

である。

このように観察すれば、異なり26字（延べ29字）の漢字の中にはその「カタカナ」と日本の漢字音と一致しているのがただ3字（「亞」・「縣」・「衣」）である。また、この9語の外に、『隊務日記』（異なり131字、延べ153字）で日本の漢字音と一致しているのが18字だけである。（注Aを参照）

「カタカナ」（『獨逸日記』により、以下同）の「レ」に対し、鷗外が漢字（字音）の「獵」・「烈」を仮借して表記した。「カタカナ」の「べ」に対し漢字（字音）の「槩」・「帛」・「白」を仮借して表記した。表⑤を見ていただきたい。

表⑤

カタカナ	漢字表記	現代中国語音	現代中国語音 (漢語拼音方案)	字 音
レ	獵	lie	Liè	レフ (リョウ)
	烈	lie	Liè	漢：レツ 呉：レチ
べ	槩	po	Bò	漢：ハク 呉：ヒャク 慣：バク
	帛	po	Bó	漢：ハク 呉：ビャク
	白	pai po	Bái Bó	漢：ハク 呉：ビャク

これで、鷗外は中国語音（日本の漢字音ではなくて）をもって、外国人名の原語の字音に当てていたと言えるではないか。

しかし、ここではもう一つ考えなければならないことがある。中国語音をもって漢字を当てたとしても、中国人のように、直接原語を漢字に当てるというわけではない。

これについて、中国人による中国語訳と比較していささか観察したい。比較資料は1924年に中国で出版された『標準漢譯 外國人名地名表』を使用する。この本と『隊務日記』に共通する語は計18個がある。（表⑥）

(表⑥)

原 語	漢字表記	中国語訳
Baden	葩田	巴登・巴敦
Bastian	巴斯氏安	巴斯棠・巴斯堂
Becker	槩架兒	柏刻
Bergmann	珀珥古曼	柏格曼

Buchner	勃乎蕪兒	畢希勒
Haydn	海整	嘿頓・海頓
Jonas	約内士	郁納斯
König	履泥黠	刻尼喜
Müller	繆獵兒	米勒
Rudolph	魯陀盧佛	路德福
Virchow	唯爾和吾	微耳和・威爾和夫
Samuel	薩母耶盧	撒母耳
Schubert	庶別爾多	叔柏特
Stanislaus	司丹尼老章	斯坦尼斯羅
Clausewitz	古老熱未卒	克勞則維次
Horn	火輪	和輪・和倫・和恩
Seckendorff	葉簡多爾輔	則懇多夫
Weber	伉野白兒	韋柏・葩白爾
Wilhelm	維廉	威廉・維廉
Roth	蘆朶	洛特

全体としては、中国語訳のほうは字数が少ない。特に、目立つのはカタカナの「ル」に当る漢字表記の最後の一字「兒」は中国語訳にはほとんど見当たらない（「伉野白兒」の「兒」は唯一の例外）。また、2字の「氏安」は1字の「業・堂」に縮短されたように、字数が減少するのは計12ヵ所にのぼる。中国人は原語の発音に基づいてほぼ似ている漢字を当てるのが普通である。例えば「Becker」の場合、その発音/beke:r / (IPA国際音声記号)により、「柏刻」という漢字で当てる。一方、鷗外の場合はまず「Becker」を日本語音「ベツケル」を介し、その「ベツ」を「槩」に、「ケ」を「桀」に、「ル」を「兒」に当てたと思われる。

ところで、ただ一言「中国語音」というのはあまりにも粗雑である。中国の「標準語」のもととされる「北方話」を除き、また6大方言⁸がある。音韻の面から見れば、それぞれの特徴をもっている。当時、用いられていたのは「北方話」の音だけではなくて、他の方言のほうも十分に考えられる。例えば、『洋語音訳筌』（明治五年）の序文には下記のように記してある。

- 一 凡テ音譯ニハ漢人ノ譯アリ洋人ノ譯アリ又其用ユル所ノ今ノ唐音ニモ官音アリ満州音アリ廣東音アリ（略）

この事について、鷗外も例外ではない。『隊務日記』に見られる50個の外国人名の漢字表記には現代中国語音（「漢語拼音方案」）の面から観察見れば、いくつか漢字の音韻上のずれが見られる。先に挙

⁸ 吳語・湘語・贛語・客家語・閩語・粵語をさす。（『言語学大辞典』より）

げた例「レ」(表⑤)を付け加えて説明しよう。鷗外が「獵」・「烈」の外に、「列」・「裂」・「勒」⁹をもあてた。「列」・「裂」は同様に「Liè」と発音するが、「勒」は「Lè」と読む。『宛字外来語辞典』(P 112・208)では、「勒」は少なくとも日本語音の「ル」・「リ」・「レ」にあてられる。「勒」は「レ」と読まれるのは中国の南から由来するだろうと推測するが、これについて今後精密な考察を待たなければならぬ。ここでは指摘するにとどまりたい。

最後に、ドイツ語音の「l」と「r」に関わる問題を考えよう。「l」と「r」は同じ「ル」(日本語音)と読まれるが、この二つの区別はこれらの人名には出てこなかった。表⑦を参照すれば分かるように、「兒」・「魯」は重複に使用された例があるから、鷗外がこの二つの発音を区別して漢字表記に反映しなかったと考えられる。

表⑦ (延べ字数は () で数字を示す)

カタカナ	ドイツ語音	漢字表記
ル	l	兒(2)・魯(1)・盧(3)・虜(1)
	r	兒(9)・魯(1)・爾(6)・餌(1)・耳(1)・珥(1)

五 漢字で表記した外国人名の意味連結について

鷗外は原語の発音に基づいて、中国語音をもって外国人名にあてる際には漢字の意味に配慮があるものが見られる。これは一概には言えないが、まず、同じ部首(組み立て)の漢字を一緒に使用するものがある。

「馱馱」、「璃珀」、「緜經」(「緜」は「綿」の正字である。)、
「露織霧絲」の「露・霧」と「織・絲」、
「蠹騰」、「槩桀」、「珀珥」

などがこれにあたる。これは直接の意味連結にはならないが、意味を持たせやすいと思う。

次に、漢字の組み立てと関係なく、前後の漢字により語の意味をなすものがある。この点について、下記の例を示してみる。¹⁰

- ・「馱馱尾足」：「馱」は「馬が速く走る」意である。「馱」は高さ七尺(157センチ)以上の大きい馬の意である。二字とも「馬」と関係があり、次の「尾」と「足」も意味上の連結があると思われる。
- ・「穀獵兒」の「穀獵」：「穀」は「弓をいっぱい引き絞る」意である。これは「獵」と意味上

⁹ 『獨逸日記』を参考として、『隊務日記』にある原語の発音を推測する。ドイツ語は音と文字のずれが比較的少ない、基本的にはローマ字読みに近いと思っている。(注Aを参照)

¹⁰ 「鼈耳顛」(大鼈の耳がふるい動かす。)など牽強附会の説になる可能性がある語は除外する。

の連結があると思う。

- ・「履泥黠」の「履泥」：「泥を踏む。」の意である。
- ・「骨老墮伉爾宿脱」の「骨老」：「老骨」に相当する。「年おいた身。老躯。」意である。
- ・「謨燮和魯度」の「燮和」：宰相の意である。
- ・「灑衣帛」：「涙」を添え加え、「涙灑衣帛」とは、解かりやすくなるだろう。ちなみに、この人は独逸の一等軍医であり、独逸陸軍省の命を受けて、日本人の軍医総監石黒氏の属員となった。
- ・「覆穀兒」「覆穀」：「穀」は「車、車両」の意がある。「覆」は文字とおりの「覆す」の意である。それで、「覆穀」は「車を覆す」という意味になりうる。
- ・「火輪」：「太陽の別名。火のわ。また、火の玉。」の意である。
- ・「魯陀盧佛唯爾和吾」の「唯爾和吾」：「唯あなたとわたし。」の意になれる。
- ・「魯叔」：「明、薛三省の字。」の意である。
- ・「爛劍魄骨」：剣というものは腐っても魂と骨組みが残る。

更に、同じ原語により、異なった漢字表記が見られる。(表⑧)

表⑧

原 語	漢字表記	職業種及び階級
Gossler	餓獅裂餌	大尉
	我事勒爾	吏

この「Gossler」¹¹は「餓獅裂餌」と「我事勒爾」の二種の漢字で表記されている。全部異なる漢字を使用した。字面から考えれば、「餓獅裂餌」は「餓える獅子が餌を裂く」という意であろう。一方、「我事勒爾」は「私の事はあなたを縛る。」という意であろう。

勿論、これらは牽強附会の説になる恐れがあるが、(全部ではないが) 鷗外が意味上の連結から漢字を採択する配慮があると言えるのではないか。管見の限り、外国人名を漢字で表記する場合、特定の意味になるのを避けるのが普通である。これは断然と言えないが、ここでは便宜上、柏書房の『宛字外来語辞典』・『洋語音訳箋』(1872年)・『世界年鑑』(1898年)と中国の『標準漢譯 外國人名地名表』を比較資料として観察した。

六 おわりに

中国のほうは外国人名の表記について、1924年までまだ規範化されていない。その年に出版された『標準漢譯 外國人名地名表』の序文に編纂者の何崧齡氏は下記のように指摘している。

¹¹ この名字の現代中国訳は「格斯納」・「苛斯納」である。(『徳漢詞典』P1486,1490より)

外國人名地名，向無一定譯法，淆亂之弊，與日俱深，學者苦之。（後略）

私見を言えば、中国語における外国人名の表記はほとんど音訳語に属している。この音訳法は1920年前後、中国の「五四の時期」を中心として、広く用いられてきた。これは、当時の「馬克思（マルクス）」・「列寧（レーニン）」・「赫魯曉夫（フルシチョフ）」から現在の「布什（ブッシュ）」・「克林頓（クリントン）」まで、現在においても人名の訳出に欠かせない方法である。これは台湾においても中国においても変わらないのである。若干の語彙の差異がある¹²と言っても、外国人名の場合は意味上の連結から漢字を採択する配慮がないというより、意味の連結を免れるのが普通である。¹³

以上の考察から見れば、まず、鷗外は漢字で外国人名を表記する時、中国語音をもって、外国人名の原語の字音に当てていたと言える。次に、漢字で表記する際に、前後の漢字の音のみでなく、漢字の形（組み立て）・義（意味の連結）も一緒に勘案したと考えられる。

¹² 例えば、現時点（生きている）、アメリカ大統領を経験した人は下記の五人である。漢字が異なる場合、太字で示す。

原 語	中国語（中国大陸）	中国語（台湾）
Clinton	克林頓	柯林頓
Bush	布什	布希
Reagan	里根	雷根
Carter	卡特	卡特
Ford	福特	福特

¹³ 音訳のみとは違って、「クラブ」を「俱樂部」に当てるような、意味を含めた音訳は人名を除き、いくつか存在している。中国語にもある。例えば、「コカコーラ」⇒「可口可樂」（「口によし、楽しむべし」という意）が挙げられる。しかし、人名の場合、意味を含めた音訳は管見の限り、両国において、めったに見られない。というより、意味連結に繋がる可能性を避けるのは普通である。

注A

延べ語数が2及び2以上がある場合、その数字を（ ）に入れて示す。

漢字の中には二つ以上の字音を持つ文字がある。その場合、字音に①②③…の記号を付ける。

五十音	漢 字
イ	台 (慣：ダイ、①イ、②タイ、③シ・ジ、) ・裔 (エイ)
ウ	霧 (漢：ロ、呉：ル、慣：ロウ)
ウイ	尾 (漢：ビ、呉：ミ)
エ	耶 (2、①ヤ、②漢：シャ、呉：ジャ)
オ	阿 (①ア、②ア)
キ	織 (①漢：シヨク、呉：シキ、②シ)
ク	古 (2、コ) ・骨 (2、漢：コツ、呉：コチ) ・谷 (①コク、②ヨク、③ロク) ・屈 (漢：クツ、呉：クチ)
グ	穀 (コク) ・馱 (①漢：ケツ、呉：ケチ、②漢：クワイ (カイ)、呉：ケ)
グツ	屈 (漢：クツ、呉：クチ)
ケ	潔 (漢：ケツ、呉：ケチ)
ゲ	鼈 (ゴウ)
ケエ	履 (リ) ・轂 (コウ)
ケン	簡 (漢：カン、呉：ケン)
ゲン	劍 (ケン) ・再 (サイ、慣：サ)
コ	古 (コ) ・過 (①クワ (カ)、②クワ (カ))
ゴ	我 (ガ) ・餓 (ガ)
サ	颯 (サフ (ソウ)、慣：サツ)
ザ	薩 (漢：サツ、呉：サチ)
シ	事 (漢：シ、呉：ジ、慣：ズ) ・獅 (シ)
シュ	司 (①シ、②シ) ・叔 (シュク)
シュウ	庶 (シヨ)
ス	斯 (シ) ・章 (シヨウ) ・絲 (シ) ・宿 (漢：シュク、呉：スク) ・士 (3、漢：シ、呉：ジ) ・司 (①シ、②シ)
セ	士 (漢：シ、呉：ジ)
ゼ	熱 (漢：ゼツ、呉：ネチ、慣：ネツ) ・查 (漢：サ、呉：ジャ) ・燹 (シヨウ)
ゼツ	葉 (①エフ (ヨウ)、②セフ (シヨウ))
セン	顛 (セン)
ソン	孫 (①ソン、②ソン)
タア	得 (トク) ・丹 (タン)
ツ	礎 (漢：ソ、呉：シヨ) ・卒 (①漢：ソツ、呉：ソチ、②漢：シュツ、呉：シュチ) ・族 (漢：ソク、呉：ゾク) ・足 (慣：スウ、①漢：チヨク、呉：ソク、②漢：シュ、呉：ス)
テ	的 (漢：テキ、呉：チャク)
デ	特 (漢：トク、呉：ドク) ・騰 (①漢：トウ、呉：ドウ、②漢：トウ、呉：ドウ) ・植 (①漢：チヨク、呉：ヂキ (ジキ)、②トク・ドク)

デン	田 (漢：テン、呉：デン)
ト	度 (2、①漢：ト、呉：ド、②漢：タク、呉：ダク) ・ 墮 (漢：タ、呉：ダ) ・ 脱 (慣：ダツ、①漢：タツ、呉：ダチ、②タイ) ・ 兌 (慣：ダ、①漢：タイ、呉：ダイ、②エイ、③漢：エツ、呉：エチ) ・ 拖 (タ)
ド	多 (3、タ) ・ 陀 (①漢：タ、呉：ダ、②漢：チ、呉：ジ) ・ 度 (①漢：ト、呉：ド、②漢：タク、呉：ダク)
ドン	整 (トン)
ナ	内 (①漢：ダイ、呉：ナイ、②漢：ダフ (ドウ)、呉：ナフ (ノウ))
ニ	尼 (①漢：チ (ジ)、呉：ニ、②漢：ヂツ (ジツ)、呉：ニチ) ・ 泥 (①：漢：デイ、呉：ナイ、②漢：デイ、呉：ナイ、③漢：デイ、呉：ナイ、④漢：デツ、呉：ネチ)
ネ	孽 (漢：ゲツ、呉：ゲチ)
ハイ	海 (カイ)
バア	葩 (ハ)
バル	雹 (漢：ハク、呉：バク)
ハン	韓 (2、漢：カン、呉：ガン)
ヒ	黠 (①漢：キョク、呉：コキ、②キ、③漢：セキ、呉：シヤウ (ショク)) ・ 蹊 (漢：ケイ、呉：ゲイ) ・ 秣 (①漢：カウ (コウ)、呉：コウ、②漢：キウ (キウ)、呉：ク、③コウ・ク)
フ	輔 (2、慣：ホ、漢：フ、呉：ブ) ・ 佛 (慣：ブツ、①漢：フツ、呉：ブチ、②漢：ヒツ、呉：ビチ、③漢：ホツ、呉：ボチ) ・ 乎 (漢：コ、呉：ゴ)
ブ	伉 (①カウ (コウ)、②カウ (コウ) ・ 勃 (慣：ボツ、漢：ホツ、呉：ボチ) ・ 蒲 (漢：ホ、呉：ブ、唐：フ)
ファ	法 (慣：ハツ・ホツ、漢：ハウ (ホウ)、呉：ホフ (ホウ))
ブウ	勃 (慣：ボツ、漢：ホツ、呉：ボチ)
フォ	覆 (慣：フク、①フク、②フ)
ブイ	未 (漢：ビ、呉：ミ)
ベ	珀 (2、漢：ハク、呉：ヒヤク)
ベ	百 (漢：ハク、呉：ピヤク)
ベエ	別 (慣：ベツ、漢：ヘツ、呉：ベチ)
ベツ	迫 (漢：ハク、呉：ヒヤク) ・ 魄 (①漢：ハク、呉：ヒヤク、②漢：ハク、呉：バク)
ベン	辨 (漢：ハン、呉：ベン)
ベエ	彼 (ヒ)
ホ	火 (クワ (カ)) ・ 和 (唐：ヲ (オ)、①漢：クワ (カ)、呉：ワ、②漢：クワ (カ)、呉：ワ)
マ	麻 (漢：バ、呉：マ・メ)
マン	曼 (2、漢：バン、呉：マン)
ミユ	寐 (漢：ビ、呉：ミ)
ム	母 (漢：ブ、呉：ム) ・ 目 (漢：ボク、呉：モク)
ムウ	謨 (漢：ボ、呉：モ)

メン	脛 (メン)
ヨ	約 (漢:ヤク、呉:アク)
ラ	瀬 (ライ)
ラア	駮 (ライ)
ラウ	老 (3、ラウ (ロウ))
ラン	爛 (漢:ラン、呉:レン)
リ	里 (リ)・李 (リ)・禮 (漢:レイ、呉:ライ)
リイ	蠡 (①漢:レイ、呉:ライ、②リ、③ラ)・璃 (リ)
ル	兒 (7、①漢:ジ、呉:ニ、②ゲイ)・爾 (5、漢:ジ、呉:ニ)・魯 (2、漢:ロ、呉:ヒ)・虜 (リョ)・珥 (漢:ジ、呉:ニ)・餌 (漢:ジ、呉:ニ)・耳 (①漢:ジ、呉:ニ、②漢:ジョウ、呉:ニョウ)
ルン	輪 (リン)
レ	獵 (レフ (リョウ))・列 (漢:レツ、呉:レチ)・勒 (2、ロク)・裂 (漢:レツ、呉:レチ)
ロ	蘿 (ラ)・洛 (ラク)
ロオ	羅 (ラ)・露 (慣:ロウ、漢:ロ、呉:ル)
ロツ	囉 (①ラ、②ラ、③ラ)
ロン	輪 (リン)

[参考文献]

- 『鷗外と漱石明治のエース』三好行雄 1983年 力富書房
- 『森鷗外の『独逸日記』』植田敏郎 1993年 大日本図書
- 『洋語音訳筌』村田文夫編 1872年 三都書林
- 『世界年鑑』伊笠碩哉 1898年 大日本図書
- 『学研漢和大事典』藤堂明保編 1978年 学習研究社
- 『漢字百科大事典』佐藤喜代治編 1996年 明治書院
- 『新版漢語林』鎌田正・米山寅太郎著 1995年 大修館書店
- 『廣漢和辭典』諸橋轍次・鎌田正・米山寅太郎編 1981年 大修館書店
- 『大漢和辭典』(縮写版) 諸橋轍次 1968年 大修館書店
- 『漢語大詞典』羅竹風主編 1990年 漢語大詞典出版社 (中国)
- 『宛字外来語辞典』1997年新装版 (1979年第一刷) 柏書房
- 『独和大辞典』(第二版コンパクト版) 国松孝二編 2000年 小学館
- 『言語学大辞典』亀井孝・河野六郎・千野栄一編 1989年 三省堂
- 『鷗外全集』(第三十五卷) 1975年 岩波書店
- 『徳漢詞典』北京大学・同济大学・北京外国語院共編 上海訳文出版社 (中国)

森鷗外の漢文日記に見られる外国人名の表記についての一考察 - 『隊務日記』を中心に - 何 欣泰

『標準漢譯 外國人名地名表』何崧齡・余祥森・夏粹若編1975年影印版（1924年中国商務印書館）
汲古書院

『漢語方言詞滙』北京大学中国語文学系語言学教研室編 1964年 文字改革出版社

「THE INTERNATIONAL PHONETIC ALPHABET」(revised to 1993) The INTERNATIONAL
PHONETIC ASSOCIATION

(<http://www2.arts.gla.ac.uk/IPA/ipa.html>)